

地方公共団体における人権教育事業の実施状況に関する調査研究
事例調査票

様式2

(財)人権教育啓発推進センター

実施自治体・担当課（連絡先）	岡山県教育庁人権・同和教育課指導班 電話：（086）226－7612
----------------	---------------------------------------

1. 概要

事業名	人権教育・啓発指導者講座Ⅰ 人権教育・啓発指導者講座Ⅱ
主催（共催）	岡山県教育庁人権・同和教育課 岡山県産業労働部人権・同和対策課
実施年月日・実績等	○人権教育・啓発指導者講座Ⅰ 平成16年 5月20日：25名 平成16年 6月30日：25名 平成16年 7月14日：25名 平成16年 8月 4日：26名 平成16年 9月 1日：26名 平成16年10月13日：23名 平成16年12月 1日：27名 ○人権教育・啓発指導者講座Ⅱ 平成16年 7月28日：61名 平成17年 2月 8日：58名
*回数・参加人数・作成部数等	
開催場所	ピュアリティまきび、国立療養所邑久光明園、洗染一揆関係地
対象	人権教育・啓発指導者講座Ⅰ：市町村教育委員会及び市町村から推薦のあった者、企業の方 人権教育・啓発指導者講座Ⅱ：講座Ⅰ修了者のうち希望者を対象
人権課題	人権全般、同和問題、障害者、子ども、女性、ハンセン病

2. 事業内容

(1)事業の目的	「岡山県人権政策推進指針」及び「岡山県人権教育推進委員会答申」の趣旨を踏まえ、同和問題をはじめ様々な人権問題の早期解決に向けて、人権問題相互の関連を図り、自らの課題として日常生活の中に生かせる人権感覚を身に付けるための教育啓発活動を一層推進するため、深い認識と実践力を持った指導者の養成を行う。
----------	---

(2)事業概要	○人権教育・啓発指導者講座Ⅰ 岡山県産業労働部人権・同和対策課と共催実施している。 受講者は、各市町村教育委員会及び市町村から推薦された者や企業の方からなり、毎年約30名前後が受講しており、平成16年度までの修了者は、485名である。 講座内容としては、様々な人権課題について知的理解を深め、体験や交流したりすることができるように、行政説明や講義のみならず、現地研修、ワークショップ等の参加体験型学習を取り入れている。 (平成16年度講座の内容) 啓発資料作成上の課題(差別表現等)について 国立療養所邑久光明園にて現地研修 洗染一揆について(講義と現地研修) 行政説明(障害者の人権、男女共同参画、子どもの人権) 人権課題についてのQ&Aづくり、ファシリテーターの養成 人権教育・啓発の指導者として(講義)等 ○人権教育・啓発指導者講座Ⅱ 岡山県産業労働部人権・同和対策課と共催実施している。 この講座は、人権教育・啓発指導者講座Ⅰの修了生の希望者に対して、人権教育・啓発に関わる様々な情報を提供することを目的として実施している。 (平成16年度講座の内容) 啓発ビデオ視聴(ハンセン病)、講演:子どもの人権(子どもへの虐待の現状と課題) 講演:セクシュアル・ハラスメント防止のために、行政説明(家庭で学ぶ情報モラル) 啓発ビデオ視聴(高齢者・女性問題)、報告:「広域化人権教育推進支援事業に取り組んで」
(2)-1 連携状況	市町村及び実行委員会等が事業主体であるが、補助や委託を通して、県下の人権教育の推進に寄与することができた。
(2)-2 特色・工夫した点(広報の方法も含む)	○人権教育・啓発指導者講座Ⅰ 様々な人権問題について理解と認識を深めることができるように学習内容を設定し、そして、その内容が単なる知識の提供に終わることなく、受講者が自ら参加し体験でき主体的に取り組めるような研修方法を取り入れるよう努めた。 ○人権教育・啓発指導者講座Ⅱ 学習内容を設定するに当たり、人権にかかわる新しい情報を提供したり、それぞれの取組を情報交換できるよう留意した。
(3)参加者の反応・事業の反響等	○人権教育・啓発指導者講座Ⅰ 7日間の連続研修であるが、様々な人権課題を扱い、講義だけではなく、ワークショップや現地研修等の体験的参加型学習の研修形態を積極的に取り入れたことにより、参加者には好評であった。 ○人権教育・啓発指導者講座Ⅱ 人権教育・啓発指導者講座Ⅰ修了生に対して、年間2回、情報提供の趣旨から、国や県の人権教育・啓発に関する動きや様々な人権課題について理解や認識を深めていくことができるような研修内容にしていることから、参加者には概ね好評である。
(3)-1 反省点・今後の課題	○人権教育・啓発指導者講座Ⅰ 講座内容や学習手法の一層の工夫が求められる。 講座修了生の指導者としての活躍が十分なされていない。 ○人権教育・啓発指導者講座Ⅱ 受講生の学習ニーズに応じた研修内容の充実。 人権教育・啓発指導者講座Ⅰ同様、指導者としての活躍の場や機会を提供していくことが課題。